

今後の予定(案)

	~H28. 3	H28年度	H29年度	H30年度
<p>○ガイドライン</p> <p>1.ガイドライン全般</p> <p>2.各技術</p> <p>「現場打ちコンクリート」</p> <p>1. 鉄筋のプレハブ化</p> <p>2. 鉄筋の継手、定着の改善</p> <p>3. 永久、埋設型枠の活用</p> <p>4. コンクリート打設方法の改善</p> <p>5. サイトプレキャスト</p> <p>「プレキャスト化」</p> <p>1. プレキャスト化未活用範囲への拡大</p> <p>2. 活用範囲の拡大</p> <p>3. 部材を効率的に施工する方法</p> <p>「共通」</p> <p>1. 規格(サイズ、仕様)の標準化</p> <p>2. コスト以外の効果を評価する手法</p> <p>3. 全体最適のための規格の標準化、設計手法</p> <p>4. 優れた工法を採用するための発注方式(設計・工事)</p>		<p>○ガイドライン改定(素案)</p> <p>○事例・効果検証</p> <p>○土木学会とりまとめとの連携</p>	<p>○ガイドライン改定(第1弾)※</p> <p>○第2弾改定案作成</p>	<p>改定(第2弾)○</p>
<p>○設計手法手引き(仮称)</p> <p>1. 規格(サイズ、仕様)の標準化</p> <p>2. コスト以外の効果を評価する手法</p> <p>3. 全体最適のための設計手法</p> <p>4. 優れた工法を採用するための発注方式(設計・工事)</p>		<p>○論点整理</p> <p>○事例分析・評価手法検討</p> <p>○土木学会とりまとめとの連携</p> <p>○とりまとめ</p>	<p>○全体最適のあり方案の作成</p> <p>○評価手法素案作成</p> <p>○試設計等による評価手法等の検証</p>	<p>○手引き検討</p> <p>手引き策定○</p>
<p>○土木学会検討</p> <p>1.設計、積算、示方書、契約の課題整理</p> <p>2.事例集</p>				
協議会	○第1回 ○第2回	年2・3回程度	年2・3回程度	年2・3回程度
その他	○PCa検査基準 ○PCa標準図集			

※各技術の検討がまとまったものから順次ガイドラインに盛り込んで改定  
例:第1弾は、機械式定着工法ガイドラインの反映を想定

検討項目	主な検討内容	検討主体	
土木構造物設計ガイドライン	1.ガイドライン全般	・各工法・技術をより活用しやすくするための考え方 ・各工法・技術の必要性能、適用範囲などの明示	本協議会
	2.各技術について		
	<b>「現場打ちコンクリート」</b>		
	1. 鉄筋のプレハブ化	・スポット溶接の性能に関する評価	※
	2. 鉄筋の継手、定着の改善		
	①機械式定着工法	・適用範囲の明確化	※
	②機械式継手	・適用範囲の明確化	※
	3. 永久、埋設型枠の活用		
	①埋設型枠工法(ハーフプレキャスト)	・必要性能の明示	※
	②鋼材との複合・合成構造化		※
	4. コンクリート打設方法の改善		
	①高流動(中流動)コンクリート	・適用範囲の明確化	※
	②連続打設工法(例:スリップフォーム工法)		※
	5. サイトプレキャスト		※
	<b>「プレキャスト化」</b>		
	1. プレキャスト化未活用範囲への拡大		※
	①NATMの覆工部材		※
	2. 活用範囲の拡大		
	①大型分割製品の規格化 (ボックスカルバート、高さ5m超)	・分割タイプの接合部の評価	※
	②柱、梁部の分割化		※
	3. 部材を効率的に施工する方法		
	①小型製品の大型化	・大型ブロックの活用促進に向けた検討	※
設計手法手引き (仮称)	1. 規格(サイズ、仕様)の標準化		本協議会 or ※
	2. コスト以外の効果を評価する手法		本協議会
	3. 全体最適のための設計手法		
	4. 優れた工法を採用するための発注方式 (設計・工事)		
その他	技術全般	生産性及び品質向上のためのコンクリート構造物の設計施工事例集(仮称)の作成	生産性および品質の向上のためのコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会

※ノウハウを持っている関連団体が主体的に検討を実施(案)